

製品安全データシート

会社名： 株式会社 十條合成化学研究所

住所： 東京都北区滝野川 3-84-2

電話番号： 03-3910-4292

Fax 番号： 03-3910-4206

作成： 平成 9年 5月 10日

改定： 平成 26年 4月 4日

製品名（商品名等）： ハイパワー

物質の特定： 単一製品・混合物の區別：

主成分の化学名： 塩化水素（塩酸）

成分および含有量： 24%以上水溶液

化学式または構造式： HCl

官報公示整理番号： 化審法 (1) -215

安衛法 _____

CAS No.： 7647-01-0

国連分類および国連番号： 国連分類：クラス8（腐食生物質 容器東急：2）

国連番号：1789

危険有害性の要約

GHS 分類

物理学的危険性

引火性液体	： 区分外	自然発火性液体	： 区分外
自己発火性化学品	： 区分外	酸化性液体	： 区分外

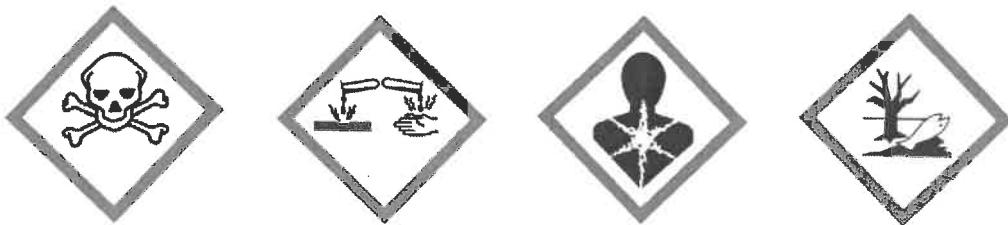
健康に対する有害性

急性毒性（経口）	： 区分 4	急性毒性（経皮）	： 区分外
急性毒性（吸入・ミスト：区分 2		皮膚腐食性・刺激性	： 区分 1A
目に対する重篤な損傷・眼刺激性			： 区分 1
呼吸器感作性	： 区分 1	皮膚感作性	： 区分 1
発がん性	： 区分外		
特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）			： 区分 1
特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）			： 区分 1

環境に対する有害性

水生毒性（急性）	： 区分 1	水生毒性（慢性）	： 区分 1
----------	--------	----------	--------

絵表示またはシンボル



注意喚起語

： 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害	吸入すると生命に危険（粉塵、ミスト） 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷	吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
呼吸器の障害	長期または反復暴露による歯、呼吸器の障害 水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しない。 換気の良い場所でのみ使用する。 環境への放出を避ける。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクなどを着用する。 使用後は保護具をよく洗う。 取り扱い後はよく手を洗う。

【救急処置】

眼に入った場合：	直ちに多量の水道水（流水）で 15 分間以上洗眼し（瞼の隅々まで）速やかに眼科医の手当てを受ける。
皮膚に触れた場合：	汚染された衣服を脱がせ、多量の水で皮膚を洗い流す。 処置後、刺激が続くようであれば医師の手当てをうける。
飲み込んだ場合：	意識がある場合は多量の水を飲ませる。 直ちに医師の手当を受ける。
吸入した場合：	新鮮な空気の場所に移し、安静にして痛みの手当を受ける。

火災時の措置：

消火剤	それ自体は燃えない。
周辺火災の場合	速やかに容器を安全な場所に移す。 移動不可能な場合は、容器およびその周辺に散水して冷却し、容器の破損を防ぐ。

漏出時の緊急措置 :	作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項 :	流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさせないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
回収・中和	漏洩した液は珪藻土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は水酸化カルシウム、炭酸ナトリウムなどの水溶液を用いて処理し、多量の水を用いて洗い流す。

取扱および保管上の注意 :

技術的対策 :	皮膚に付けたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。
注意事項 :	密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。取扱いは換気のよい場所で行う。
安全取扱い注意事項	酸性なので、アルカリ性の製品との接触を避ける。
適切な保管条件 :	容器は密閉して冷暗所に保管する。
安全な容器包装材料	ガラス、ふっ素樹脂、ポリエチレン。 材質については腐食性が強いので、鋳鉄物の物は使用できない。

暴露防止措置 :

管理濃度 :	設定されていない。
許容濃度 :	日本産業衛生学会（1992 年度版）: 5 ppm (最大値) 7.5 mg/m ³ (最大値)
	ACGIH (1992~1993 年度版) : 5 ppm (天井値)
設備対策 :	できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。
保護具 :	呼吸用保護具：酸性ガス用防毒マスク、または送気マスク 保護メガネ：ゴーグル型 保護手袋：耐酸性手袋 保護衣：長袖作業衣、保護長靴、保護服等

物理的及び化学的性質

形状	：液体	色	：通常無色（ピンクに着色）
臭い	：刺激臭	pH	：強酸性
沸点	：約 108°C (20%)	融点	：約 -50°C
引火点	：不燃性である	蒸気圧	：20hPa(20°C)
密度	：1.18g/ml(20°C)	溶媒に対する溶解性	：水；自由に混合

安定性及び反応性

安定性：	通常条件で安定である。
反応性：	アルカリ性物質と接触すると反応する。
避けるべき条件：	日光、熱
混触危険物質：	アルカリ性物質
危険有害な分解生成物	塩素、塩化水素

有害性情報

急性毒性	：飲み込むと有害（区分 4） 経皮：区分外 吸入（蒸気）：データ不足のため分類できない。 吸入すると生命に危険（粉塵・ミスト）（区分 2） ラット 経口 LD50=900mg/kg マウス 吸入 LC50=1108ppm/1H ウサギ 経皮 LD50=5010mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	：重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分 1A） ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、1～4 時間暴露により濃度次第で腐食性が認められている。マウスあるいはラットに 5～30 分暴露により刺激性および皮膚の変化を伴う潰瘍がおきている。またヒトでも軽度-重度の刺激性、潰瘍や熱傷をおこした報告もある。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	：重篤な眼の損傷（区分 1） ウサギを含め複数の動物試験の結果、眼に対する重度の刺激または損傷性、腐食性を示すとの記述があり、また、ヒトにおいても永続的な損傷や失明の恐れが記載されている。
呼吸器感作性または皮膚感作性	：吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ（区分 1） 日本職業・環境アレルギー学会特設委員会にて作成された職業性アレルギーの呼吸器感作性化学物質の一つとしてリストアップされている。 ヒトで塩化水素を含む清掃剤に暴露後気管支痙攣を起こし、1 年後になお僅かの刺激により喘息様症状を呈したとの報告がある。
生殖細胞変異原性	：皮膚感作性（区分外） データ不足のため分類できない
発がん性	：区分外
生殖毒性	：データ不足のため分類できない

特定標的臓器・全身毒性-単回暴露

：呼吸器の障害（区分 1）

ヒトで吸入暴露により呼吸困難、喉頭炎、気管支炎、気管支収縮、肺炎などの症状を呈し、上気道の浮腫、炎症、壊死、肺水腫が報告されている。

特定標的臓器・全身毒性-反復暴露

：長期または反復暴露による歯、呼吸器の障害（区分 1）

ヒトで反復暴露を受け浸食による歯の損傷を訴える報告が複数あり、さらに慢性気管支炎の発生頻度増加も報告されている。

吸引性呼吸器有害性

：データ不足のため分類できない

環境影響情報

生態毒性

魚毒性：水生毒性（急性） 水生生物に非常に強い毒性（区分 1）

水生毒性（慢性）：（区分外）

残留性/分解性

：データなし

生態蓄積性

：データなし

土壤中の移動性

：データなし

廃棄上の注意

残余廃棄物

：徐々に水酸化カルシウム、炭酸ナトリウムなどのアルカリを加え、中和させた後、多量の水で希釈して処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

容器

：空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

輸送上の注意

国内規制

道路法：施行令第 19 条の 13（通行制限物質）

船舶安全法：危規則第 3 条危険物告示別表第 1 腐食性物質

航空法：施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 腐食性物質

国連分類

：クラス 8（腐食性物質）等級 II

国連番号

：1789

輸送の特定の安全対策及び条件

：輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積込み荷崩れの防止を確実に行う。

適用法令

化学物質管理促進法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 劇物
労働安全衛生法	: 政令別表第3 特定化学物質障害予防規則（第3類物質） 法令57条の2（令第18条2）名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令第98号)
海洋汚染防止法	: 施行令別表第1 有害液体物質（乙類）
船舶安全法	: 危規則第3条危険物告示別表第1 腐食性物質
航空法	: 施行規則第194条危険物告示別表第1 腐食性物質
港則法	: 施行規則第12条危険物告示腐食性物質

その他の情報

引用文献	化学物質の危険・有害物便覧、厚生労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会（2000-2001） 15710の化学商品、化学工業日報社（2010）
------	--

※この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成しておりますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには充分注意してください。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施してください。また、含有量、物理的/化学的性質、危険有害性などの記載は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。